

お薬ニュース 6月号☆

岩手県立磐井病院 薬剤科 2014.6.1



お子さんにお薬を飲ませるとき、タイミングや飲み合わせなど様々なことで疑問がわいてくるかと思います。今月はお子さんへ薬を飲ませる際に少しでもお役に立てたらと思い、子供の薬の飲ませ方などについて特集したいと思います！！

子供は年齢が同じでも成長の速度は様々です。そこでお子さんのお薬の量を決定する際に**体重**がとても重要になります。ですから、病院受診時にはできるだけ正確な体重を伝えるようにしてください。



粉薬の飲み方

～乳児編(生後4週～1年)～

- ① 小さな容器に一回分の薬をあげ、そこに1～2ml 位の水を入れて溶かします。飲みきれぬ量で溶かしましょう。溶かしたお薬はポイトなどで飲ませてください。哺乳瓶の乳首は場合によってはミルクを飲まなくなる原因となります。
- ② 粉薬に少量の水を加えペースト状にし、頬の内側や上顎に塗ります。その後、水などを口に含ませてくすりと一緒に飲ませます。

※多くの物は甘味料でコーティングしてありますので時間をかけて練り上げてしまうと苦味が増してしまいます。

- ③ ゼリーが食べられるようであれば、お薬をゼリーでつつんであげてもいいです。



～幼児編(満1歳～小学校入学始期)～

話が理解できるならば、お薬を飲むことの大切さを理解させてからお薬を飲ませてください。また、子供が飲みやすい方法を話し合いながら工夫するのもいいでしょう。

基本的には乳児の飲ませ方と同じですが、水の代わりに好きなジュースやヨーグルト、アイスなどと混ぜて飲ませても大丈夫です。ただし、**薬によっては混ぜると苦味が増す、味が変わってしまうこともあります**。気になる際は薬剤師に聞いてください。また、薬によっては飲み合わせの良し悪しを解説している紙が渡されることもあります。

例)タミフルドライシロップ+リンゴジュース:苦味増強

クラリスロマイシン DS+ヨーグルト・オレンジジュース等の**酸性**のもの:苦味増強

味を上手く隠してくれる物の例としてチョコレートクリームやジャム(イチゴよりリンゴ)アイスクリーム、プリン、ゼリーなどがおすすめです。市販されているものにはオフラートゼリーもありますので参考にしてみてください。

お薬を主食(ミルクなど)と混ぜてしまうと味が変わってしまい、受け付けなくなる子供もいます。ですから、**主食と薬剤を混ぜ合わせて飲ませない**ようにしてください。

1歳未満の子どもには「はちみつ」はあげないでください。はちみつに含まれる成分から「乳児ボツリヌス症」を発症する可能性があります。



シロップ/水剤の飲みせ方

シロップはそのままで十分甘いものが多いのでそのまま服用できる子供も多いと思われます。スポイトを使い、一回量を頬をつたわらせて飲ませてあげると苦い薬でも比較的飲みやすくなります。飲ませた後は水を飲ませるなどしてあげた方がよいでしょう。



～お薬を飲む時間について～

必ずしも食後でなければならないというお薬ではありませんので、診察時やお薬を受け取る際に医師・薬剤師に確認してください。特に乳児の場合は食事時間が不規則、すぐにお腹一杯になってしまうので食前服用できる薬剤の時は食前でも構いません。



坐剤

坐薬を使う際には手のひらで体温位にさっと温めてください。冷たいままの場合、刺激で便と一緒に出てしまうことがあります。

おむつを交換する時の様に両足を持ち上げ、挿入時はお母さんの人差し指の一関節ほどを挿入し、しっかり奥まで入れてください。その後4～5秒ほど薬剤が出てしまわないようにおしりの穴を指でふさぎます。



～お薬 Q&A～

Q:薬を飲ませた後子供が嘔吐してしまいました。どうすればよいのでしょうか??

A:

薬を飲ませてからどのくらい時間が経過したかにより対処法が異なります。薬剤は約20～30分ほど胃内にとどまっているといわれています。ですから、お子さんが吐いた時間がお薬を服用後30分以上経過している場合には大部分が体内へ吸収されていると考えられますので再度服用しなくても大丈夫です。それ以前に嘔吐した場合、何度も嘔吐してしまう場合等は対策を考える必要がありますので、かかりつけの医療機関へ連絡してください。



Q:坐薬が2種類処方されたのですが、使用順序はあるのでしょうか??

A:

あります!!坐薬と一言にいてもそれぞれ原材料の特性が異なります。体の中に吸収されやすいものと、されにくいもの。体温ほどの温度で溶けるもの、体温以上で溶けるもの等があります。

- ① 熱さまであるアンヒバ坐剤と吐き気止めのナウゼリン坐剤が同時に処方された時。この場合は、まず先にナウゼリン坐剤を使います。その後、30分ほど間隔をあけてからアンヒバ坐剤を使います。これは、アンヒバ坐剤を先に使用してしまうと、溶けだしたアンヒバ坐剤が後から入れたナウゼリン坐剤の成分を包んでしまい、体内に吸収されにくくなってしまおうのを防ぐためです。
- ② アンヒバ坐剤と抗痙攣薬であるダイアッフ坐剤が同時に処方された場合。この場合もまず先にダイアッフ坐剤を使用してください。こちらも①と同様に溶けたアンヒバ坐剤が溶けだしたダイアッフ坐剤の成分を吸着してしまい、体内へ吸収されにくくなるのを防ぐ目的があります。

ここで紹介した例は一部であり、坐剤の組み合わせにより使用順は異なってきますので、坐剤が2剤以上処方された場合には医師・薬剤師にしっかり使用順を確認するようにしてください。(順序を間違えると期待される効果が十分に発揮されない場合があります。)



参照

一般社団法人愛知県薬剤師会 HP:<http://www.apha.jp/> ・小児のくすり Q&A:じほう ・小児の薬の選び方・使い方:南山堂

DI クイズ:日経 BP 社 ・社団法人沖縄県薬剤師会 HP:<http://www.okiyaku.or.jp/>